

障がい福祉についての意識調査
(町内会長・行政区長、民生委員児童委員、各種審議会委員等)

【結果報告書】

令和2年9月

芽室町

I 調査の概要

1 調査の目的

第6期芽室町障がい者福祉計画の策定を行うにあたり、現在のニーズを把握し、今後の支援体制のあり方を検討するため調査を実施しました。

2 調査概要

■調査方法

調査票によるアンケート調査。郵送配布・郵送回収

■調査期間

令和2年8月14日（金）～令和2年8月28日（金）

■調査対象者

町内会長・行政区長、民生委員児童委員、各種審議会委員 等

	配布数	回答数	回答率
令和2年度 (今回)	173人	114人	65.9%
平成29年度 (前回)	190	135	71.1%

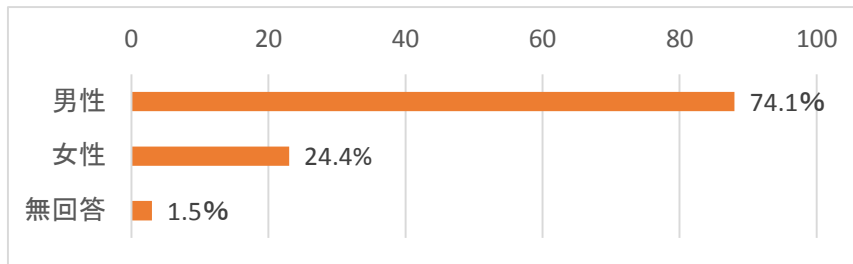
3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は回答数に対して、それぞれの割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合があります。
- 「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢は簡略化している場合があります。
- 棒グラフで、ひとつの回答項目に対し2段で示されているものは、上段が今回の結果、下段が前回の結果を示しています。

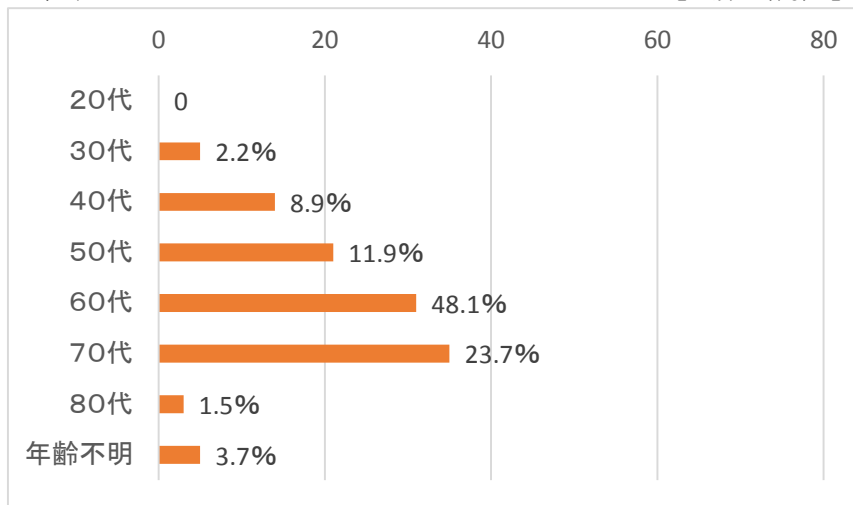
Ⅱ 調査結果（一般）

基礎的事項

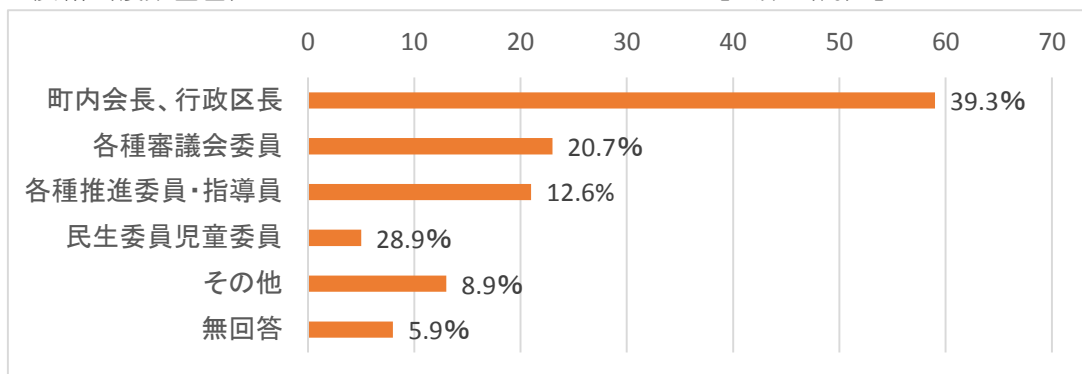
1 性別 【人数（％）】



2 年齢 【人数（％）】

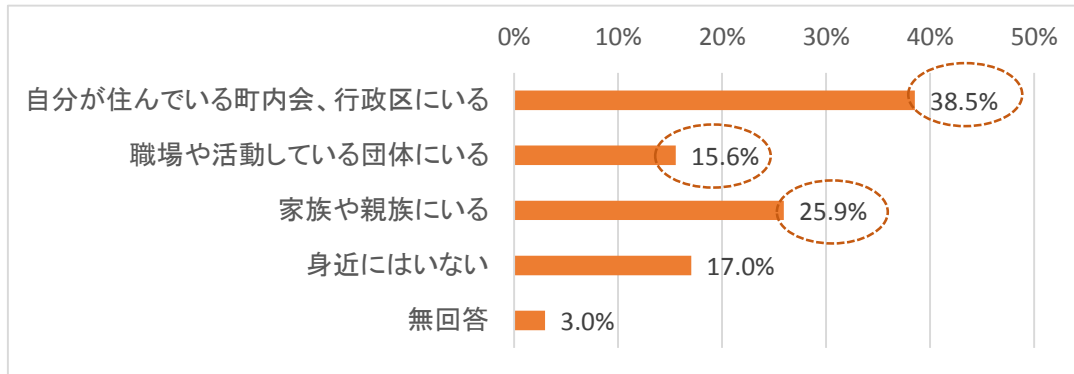


3 役職（複数回答） 【人数（％）】



その他： 社会福祉協議会理事、町内会の交通防犯、交通指導員、会社役員、PTA会長

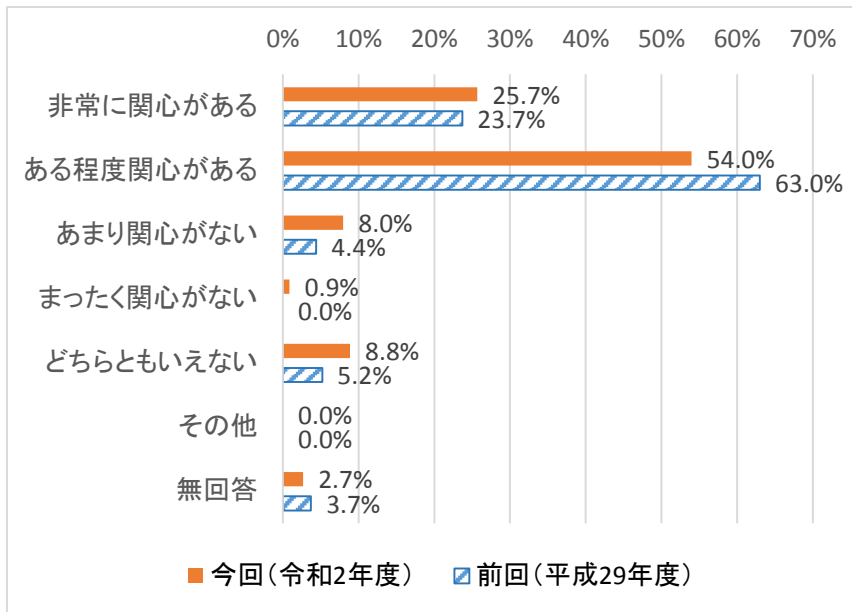
4 身近に障がいのある方がいますか。(複数回答) 【%】



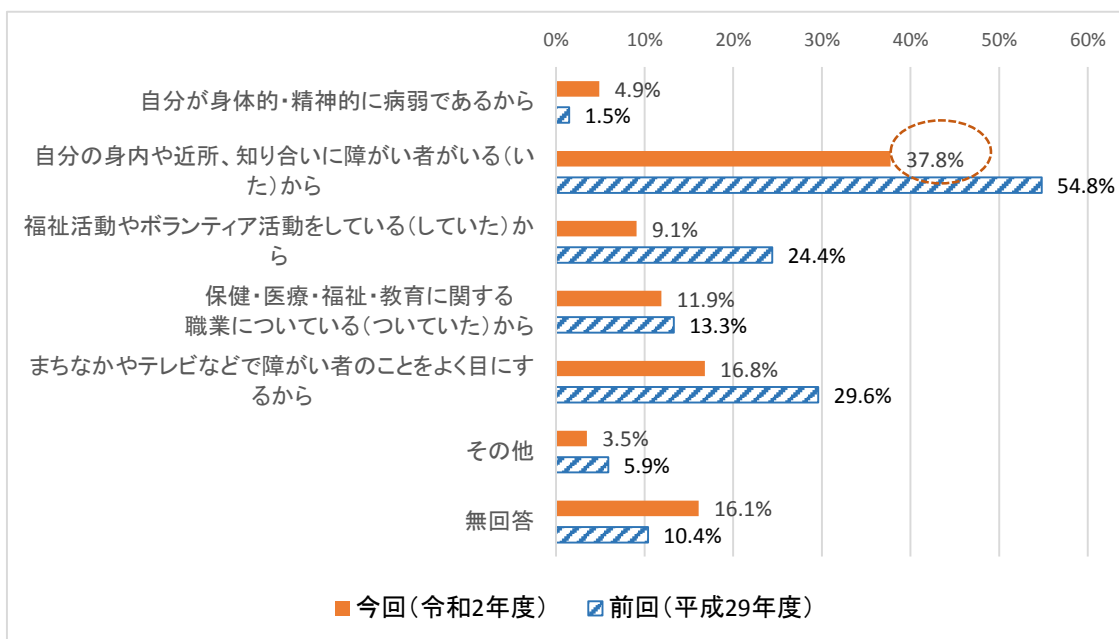
7割を超える方が「身近に障がいのある方がいる」と回答しています。

障がい者福祉への関心

5 障がい者福祉について関心をお持ちですか。 【%】



6 どのような理由から関心をお持ちですか。(5で「非常に興味がある」「ある程度関心がある」と回答した方のみ。複数回答。) 【%】

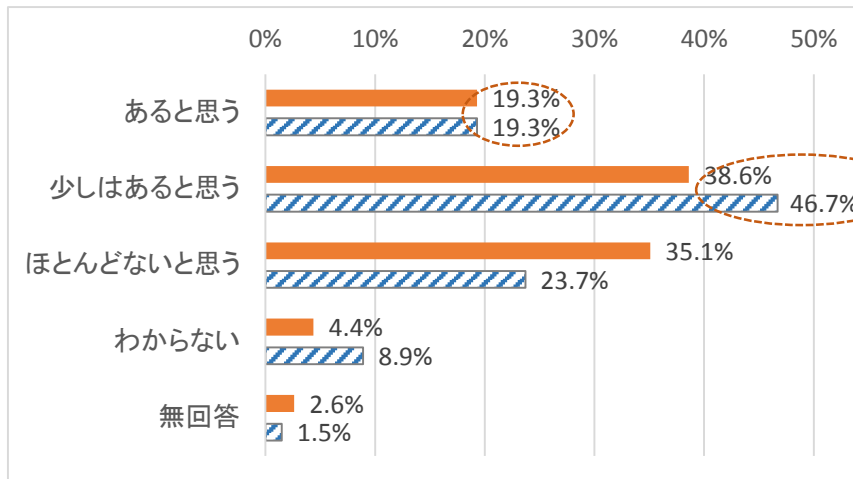


その他： 社会は健常、障がい者関係なく助け合うべきだと思うから
グループ会社で専門の会社があるため。社会の一員として当然のこと。

障がい者福祉への関心について「非常に興味がある」「ある程度関心がある」が全体の約8割となっています。理由としては、「自分の身内や近所、知り合いに障がい者がいる(いた)から」が最も高く、前回調査と同じ傾向です。

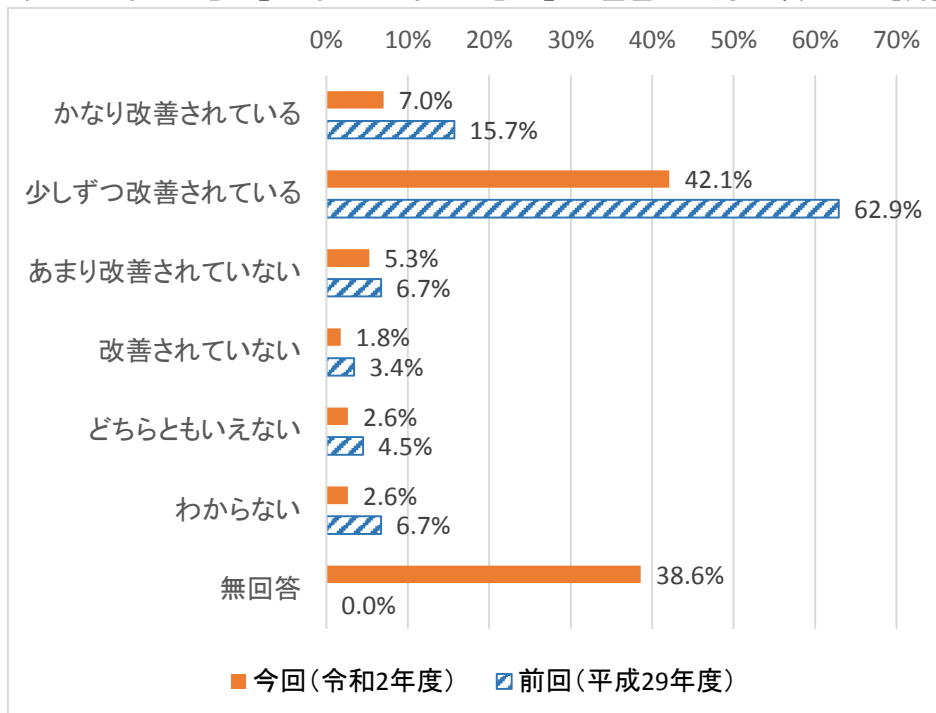
障がい者福祉への関心

7 地域社会に障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 【%】



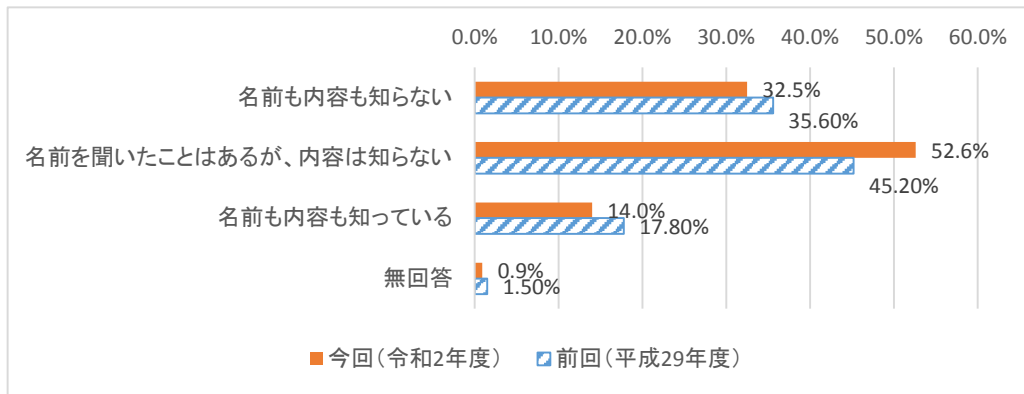
「ほとんどないと思う」が前回より12ポイント上昇し、「少しはあると思う」が8.1ポイント減少しています。徐々に差別や偏見が解消してきていると評価されていることが伺えます。

8 以前と比べて障がい者に対する差別や偏見は改善されていると思いますか。
(7で「あると思う」「少しはあると思う」と回答した方のみ) 【%】



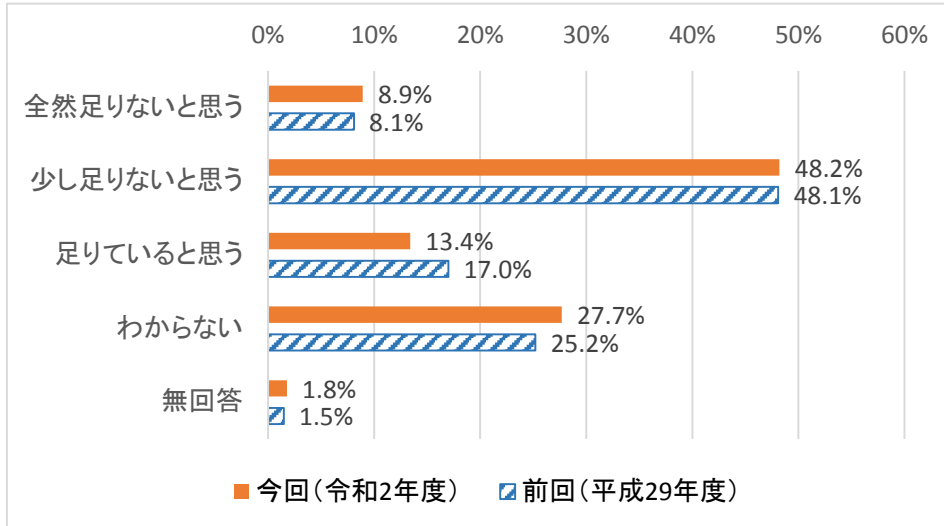
「かなり改善されている」「少しずつ改善されている」が約5割を占め、無回答も多かったですが、全体の中で高水準となっております。

9 障害者差別解消法について知っていましたか。 【%】

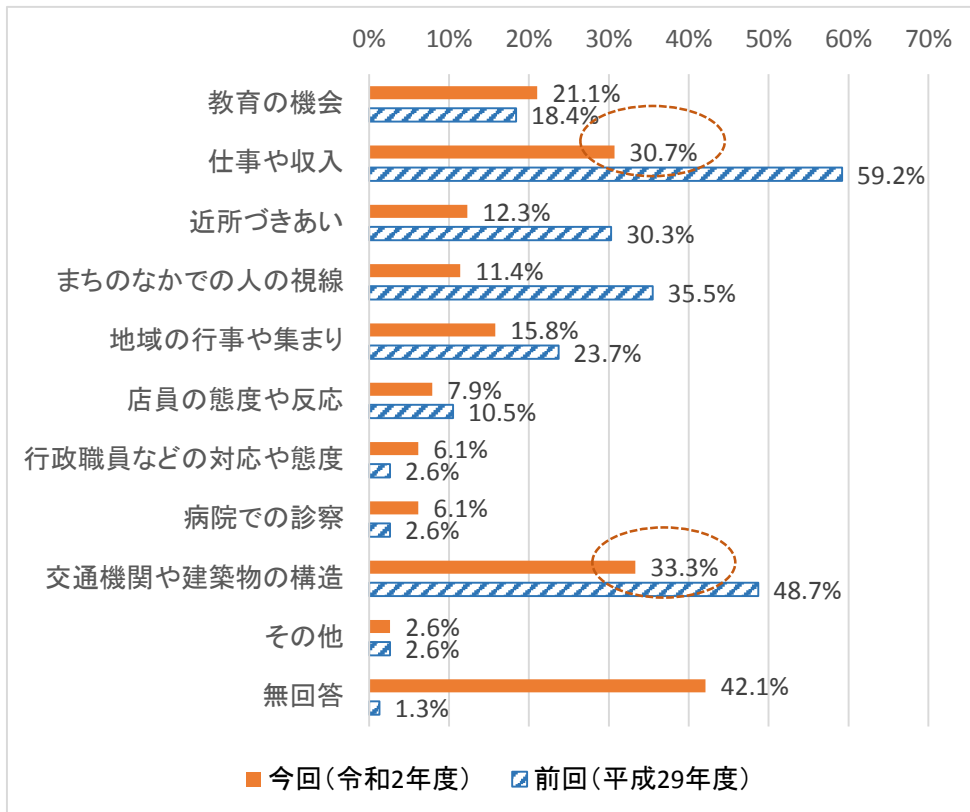


これまで昨年度、今年度と広報誌に記事を掲載して周知を図ってきましたが、「内容も知っている」という方は2割に満たず、「名前も内容も知らない」という方が約3分の1となっており、より一層の周知・啓発が必要となっています。

10 地域社会には、障がいのある方への対応や理解が足りないと思いますか。【%】



11 それはどんな場合ですか。(10で「全然足りないと思う」「少し足りないと思う」と回答した方のみ。複数回答。) 【%】



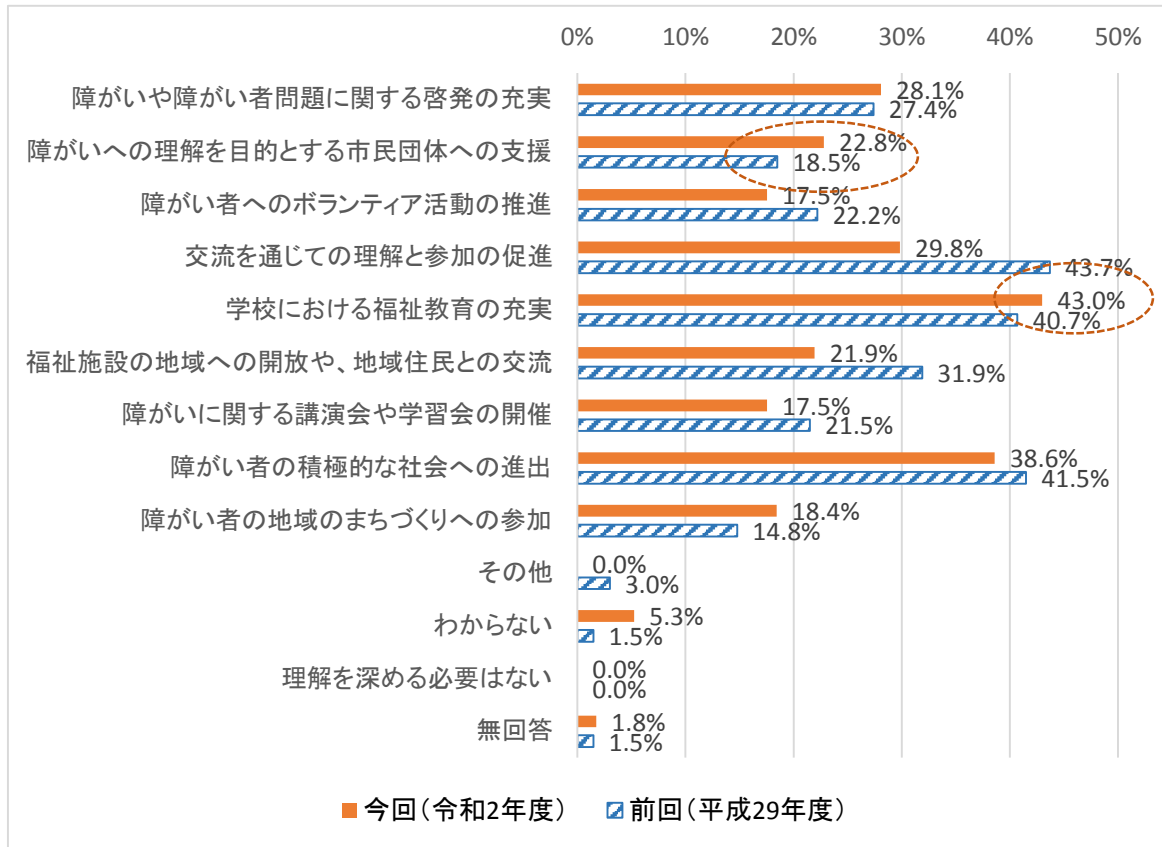
その他： 地域での理解。特に子どもの教育。

道路の段差、図柄。例：駅前通り（国道へ向かう）の歩道はすてきな歩道ですが、凹凸が見えにくかったり、模様が浮いて見えたりするそうです。

障がいのある方への対応や理解について「全然足りない」「少し足りない」が前回調査同様高くなっています。その理由としては「仕事や収入」「交通機関や建築物の構造」の割合が他と比べて高くなっています。

12 障がいのある方への市民の理解を深めるためには、何が重要だと思いますか（複数回答）

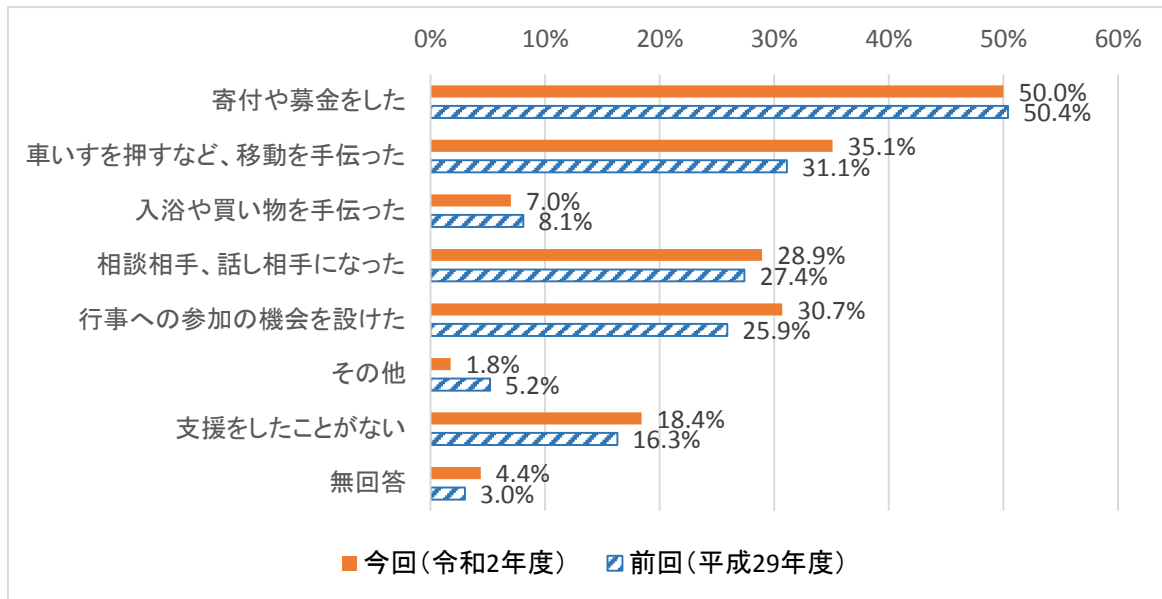
【%】



全体的には、前回調査とほぼ同様ですが「障がいへの理解を目的とする市民団体への支援」「学校における福祉教育の充実」がやや微増傾向です。

障がい者への支援・ボランティアなど

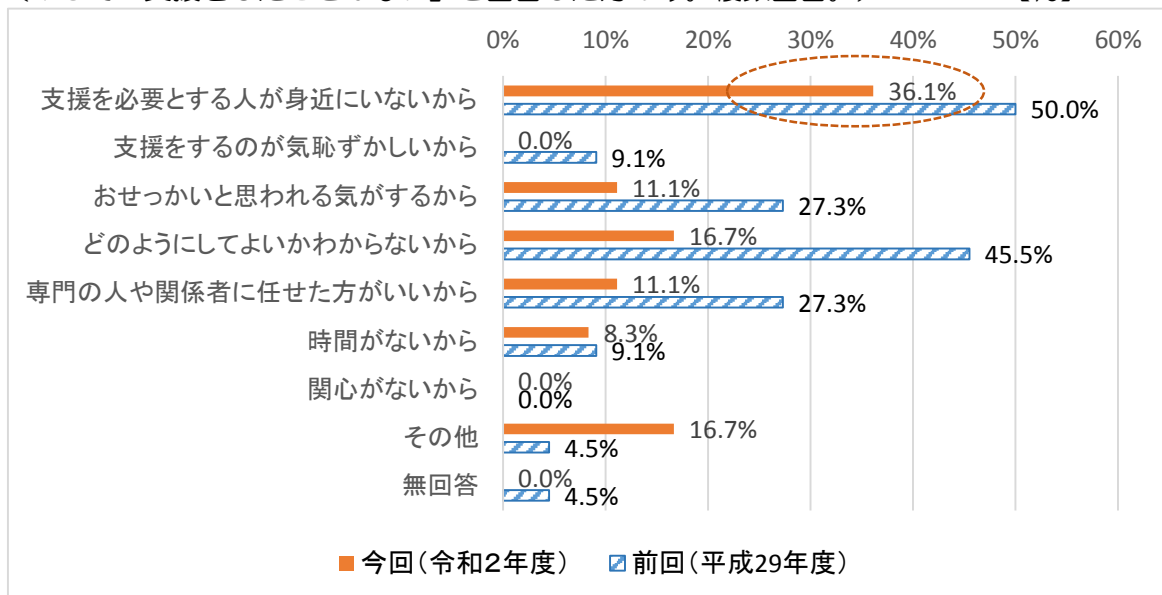
1 3 障がいのある方へ、どのような支援を行ったことがありますか。(複数回答) 【%】



「寄付や募金をした」の割合が最も高く、次いで「車いすを押すなど、移動を手伝った」「相談相手、話し相手になった」となっています。「支援をしたことがない」方は18.4%で、前回調査とほぼ同様の傾向です。

1 4 特に支援をしたことがない理由は何ですか。

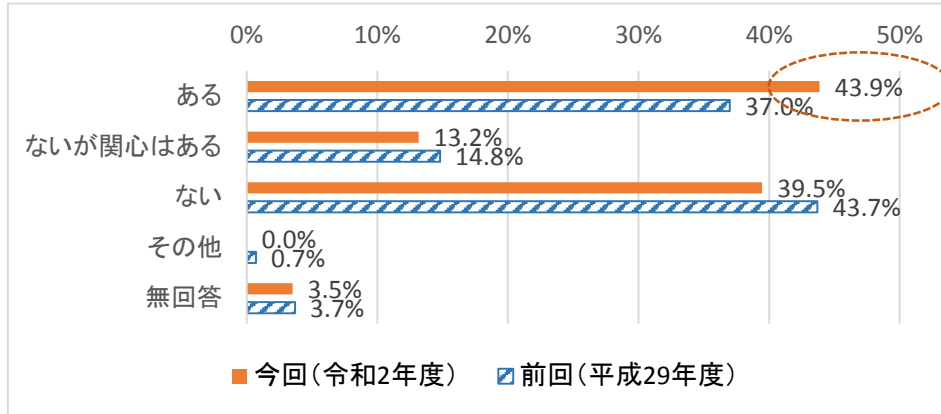
(1 3で「支援をしたことがない」と回答した方のみ。複数回答。) 【%】



その他：地域での理解

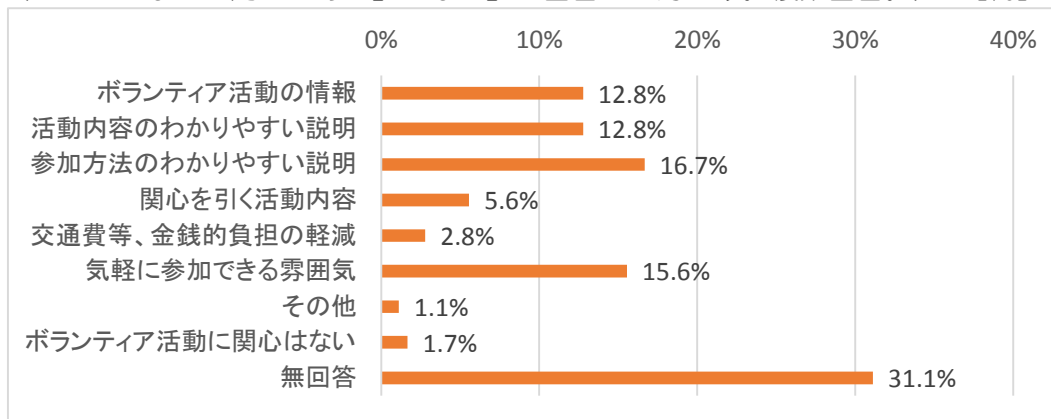
前回同様「支援を必要とする人がいないから」が高くなっています。その他では、地域の理解という記載があり、地域での理解が進んでいるという評価も得られています。

15 障がいのある方を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。【%】



16 活動に参加するためには何が必要ですか。

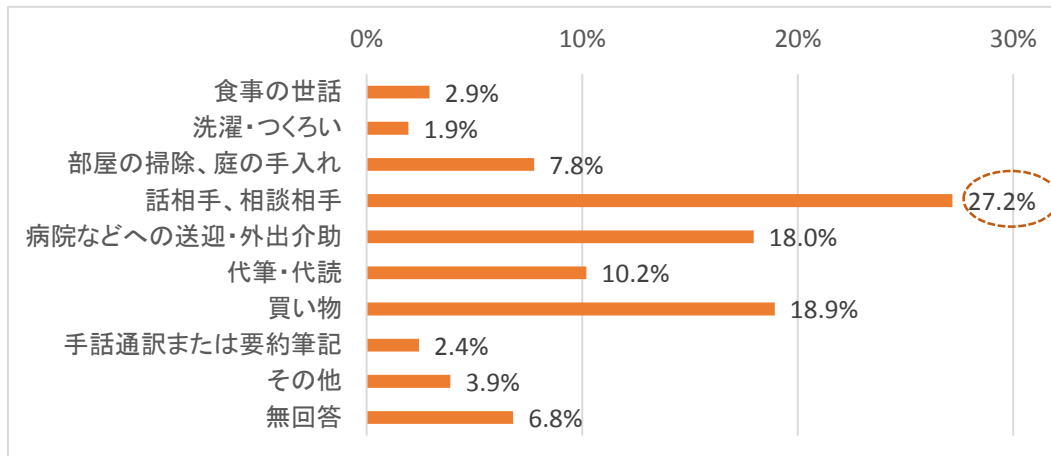
(15で「ないが関心はある」「ない」と回答した方のみ。複数回答。) 【%】



17 障がいのある方に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。

(複数回答：最大3つ)

【%】



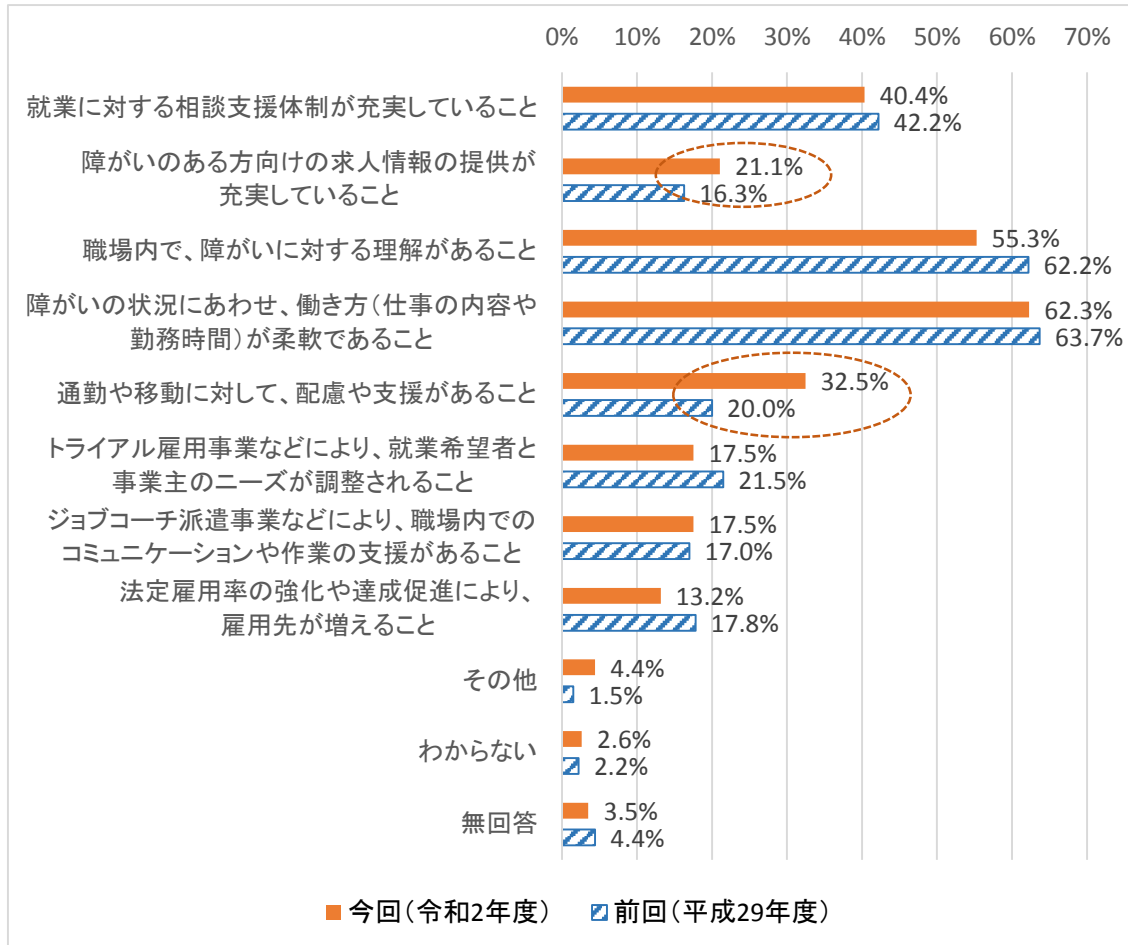
その他：障がい者団体への支援。できることと希望する支援が合えば。

近所の方とのお茶会、月2回実施。

前回と比較し、ボランティア活動をしたことが「ある」方が増えています。活動に参加するために必要なこととして「参加方法のわかりやすい説明」「気軽に参加できる雰囲気」が挙げられており、町民の方が参加しやすい体制づくりが求められます。活動の内容としては「話相手、相談相手」が高くなっており、地域の方が当事者の方の話を聞く機会を作ることが重要であると考えられます。

障がい者の就労・教育

18 障がいのある方が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。（複数回答）【%】



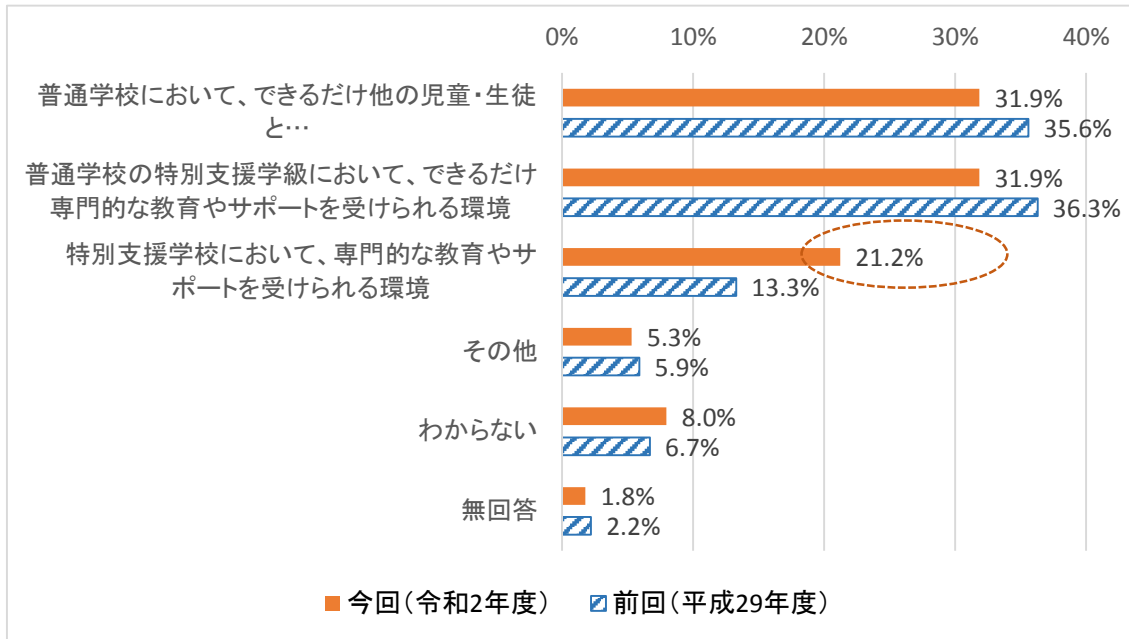
その他：幼少期から差別的な考えかた、行為に対しての子育て、教育を学び合う。

障がい者も自分の能力を知り、平等を求める権利ばかり主張しないこと。

雇用者自身の障がい者の理解度。

前年に比べ「障がいのある方向けの求人情報の提供が充実していること」が上がっています。働く意欲のある当事者の方が、情報を得やすい環境づくり、また受け入れてくれる企業を開拓していくニーズが高まっていると考えられます。また「通勤や移動に対して、配慮や支援があること」が高いことから、体制整備が必要と考えられます。

19 障がいのある子どもの就学環境は、どれが望ましいと思いますか。 【%】



その他：本人の能力や状態により環境が異なると感じる。

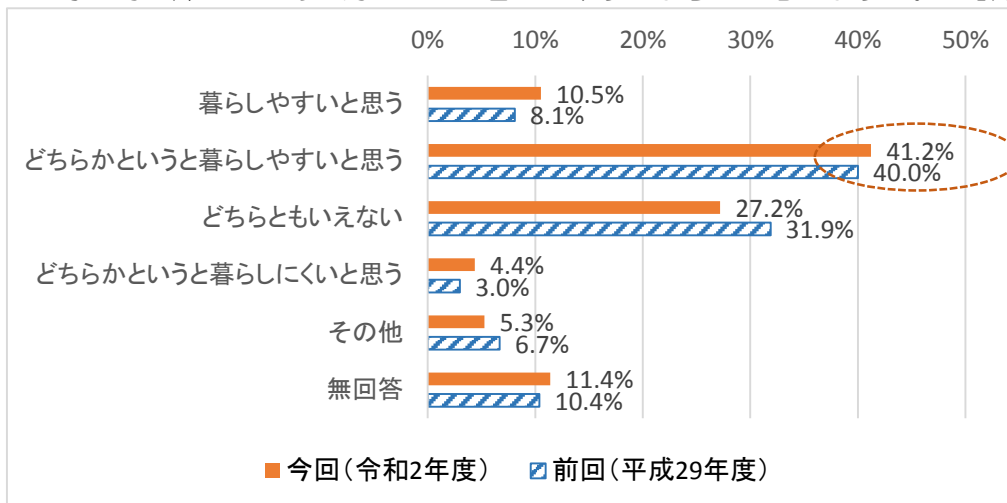
能力を伸ばすために適切な指導が行える教員がいる支援学級、そして児童生徒の交流のためには普通学級と使い分ける。

障がいの程度により、普通学級と支援学級の兼ね合いが望ましい。

前回調査と比較し、「特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境」の割合が増加しています。その他の項目では、能力を伸ばすために適切な指導が行える教員がいる支援学級と、支援学級などのニーズが高まっています。

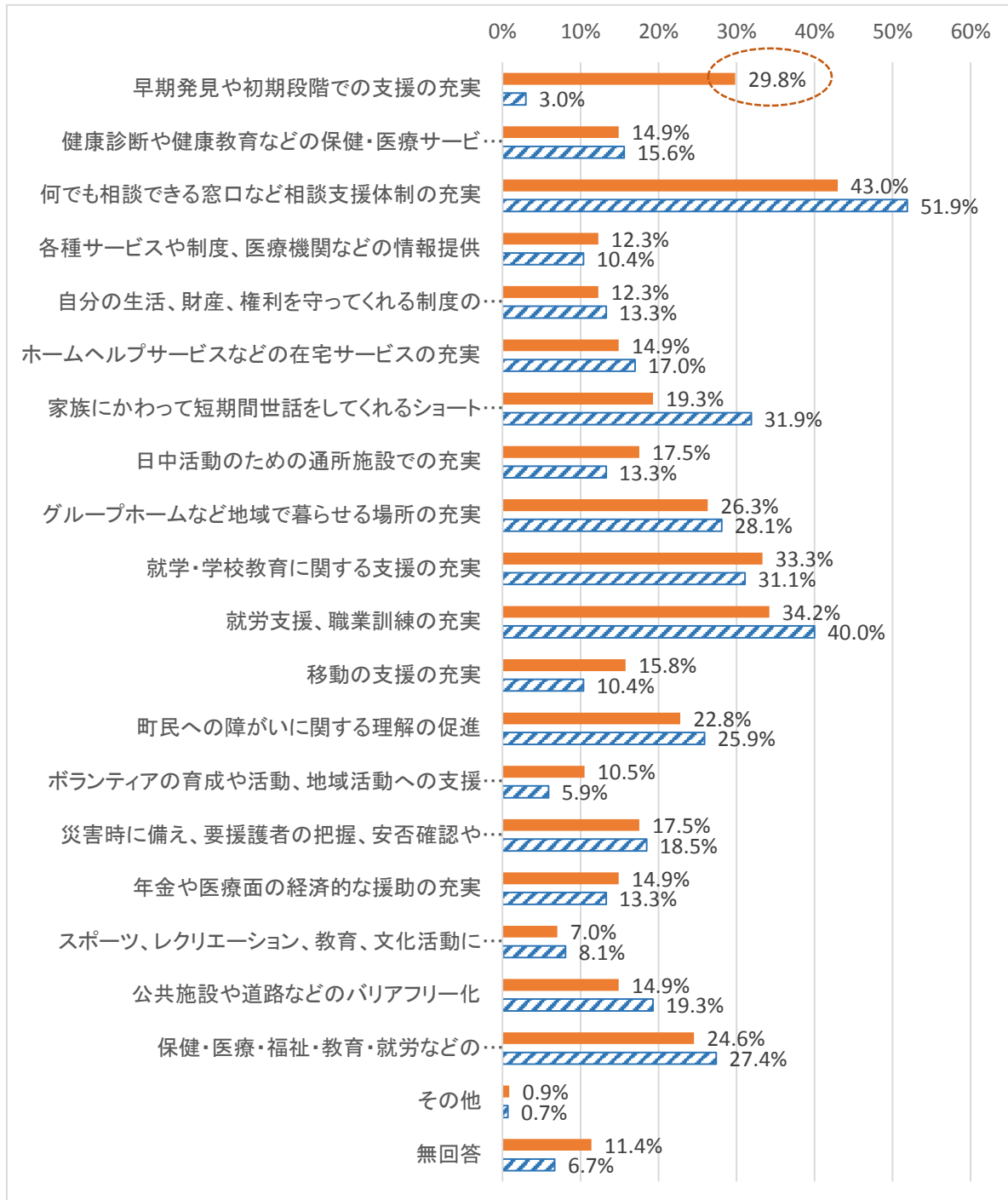
芽室町の障がい者福祉について

20 芽室町が障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。 【%】



「どちらかという暮らしやすいと思う」が約40%と最も高くなっており、前回調査と同様の傾向です。

21 障がいのある方に対する支援として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答） 【%】



「早期発見や初期段階での支援の充実」が、前回調査と比べるとはるかに上がっており、早期介入できる体制づくりが求められています。

II 調査結果（一般）

22 障がい福祉について、お考えになっていることがありましたら、ご自由にお書きください。

- 10 まず気軽に相談できる体制、行政が上から目線ではなく、同じ目線で話せる方を窓口配置してほしい（全員がそれを共有できるなら最良）。そしてあいあいのような周りに全て聞こえる状況ではなく、個別で話をすることも大切。また、2階への階段も障がい者へも高齢者へも負担です。何度かあいあいに行きましたが、対応が上から目線が何より嫌です。思いを届ける前に気持ちが折れます。そして、仕事の共有も不足していると思います。
- 15 このアンケートで、私は障がい福祉について何も知らないことに気づきました。本人や関わっている人にしか分からない悩み、問題がたくさんあるのだろうと。「健常と障がい」言葉では分かれていても、日々の生活でお互いに声かけあい、助け合える空気があるといいと思いますが、今は関わるのが難しい状況ですね。本人だけでなくサポートする家族も抱え込まない生活を送れるよう、行政はいろいろな支援策をうってらっしゃるのだなと思いました。
- 21 芽室中学校のエレベーター改修等、良いことと思った。障がいと言って、イメージするのは身体障がいが多いが、今は様々な障がい認識されつつあります。障がいだけでなく病気（症状を抱えている方）があっても暮らしやすい町になってほしいです。芽室町は子どもの発達障がい支援も手厚いですが、あまり知られていないように感じることもあります。芽室の人口を増やすチャンスでもあるので、もっとアピールしても良いと思います。また、細かいことですが文書がとても丁寧で作られていて、気持ちよくアンケート回答できました。他町からのアンケートには説明不足、乱暴とも思えるアンケートもあるので、ぜひこのようなアンケート形式を町全体（行政）でもテンプレート化したら良いと思います。
- 22 少しでも手話ができるようになればと思います。基本的な手話が覚えられるようなものがあると良いと思います。
- 24 障がい者の定義が身体的なのか、精神的なのか、病気によるものなのかがわからない。それぞれによって福祉対策が異なると思う（身体ならバリアフリー、精神なら生活保護、病気なら早期発見など）。
- 30 就労支援は九神ファームの取組等先進的であり、他からの評価も高いと聞いています。1つの取り組みに集中して終わりではなく町内の個人事業者や中小企業にも就労支援の取り組みが広がってこそ、障がい者の社会参加と理解促進につながるのではないかと思います。ちょうど数年後には新庁舎が完成しますので、清掃業務や軽飲食提供の業務を担ってもらえるような施策ができることを期待しております（今申し上げたことはオホーツク管内美幌町の保健福祉センターで実践されていますので参照されるとよいかと思います）。障がい福祉の中で力を入れていただきたいのは、権利擁護、特に財産管理の部分です。障がい者の親の力の不安として「親亡き後」の問題が言われ続けています。この部分について担える組織があることは知っていますか？今一つ力が入っていないような印象を受けます。行政としてそのような組織がしっかり機能するような導きをしていただけるように期待しています。
- 34 地域（町民）が支えて一人一人に合ったサービス、支援が必要と感じます。
- 35 障がい者は本当にかわいそうです。私は健常者ですが、これまで朝がつらいときは一度もありません。いつもスクワットしています。だから障がい者がかわいそうでなりません。元気な人は気持ちだけでも常に応援するべきだと強く思います。

- 38 障がい者の理解と交流の機会を増やすために、町立の障がい者福祉施設を建設してほしいと思っています。
- 41 障がい福祉計画については、よくわからないのが現状です。その上での意見として、町の福祉計画を策定する上でこうした意向調査をする意図は分かりますが、設問が少し総合的で具体策に結びつく結果にならないような気がしています。
 ①障がい者にも障がいの程度があり、社会参加が可能な程度の障がい者から人の世話が必須な重度の障がい者までいると考えられますので、障がい者の程度に区分して、その内容にあった設問にすると、問題点や方向性がはっきりしてくると思います。
 ②障がい者福祉の目標をどこに置くのかの設問があっても良かったのではないかと。
 ③ボランティアについては、受け入れる家族と受け入れを望まない家族に分かれると思います（推測です）。障がい者を持つ家族や身近な人にとって、ボランティアは求められているのか否か、想像もつかないので、知る用法があればいろいろな対策に役立てられると思います。
- 43 発達障がいを持つ人や精神障がい等で困難を抱えている人たちへの支援も必要と思う。
- 44 とても大切なことだと思います。でも、いざ何をすればよいかとなると難しいです。
- 45 障がい福祉を知る前段かと思いますが、一町民が障がい者施設でボランティアに参加したところ、抱きつかれてしまいどう対応したら良いか分かりませんでした、との話。身体的、精神的、精神障がいのある方への接し方を教えてほしいです。障がい福祉の住宅の部分だと思いますが、芽室病院付近に施設があり、どの程度の障がい者が入居できるのか、勉強不足でありよくわかりません。知る機会があればうれしいです。
- 46 担当の課または部署が違うからなのかも知れませんが「芽室町発達支援システム」に関しての内容が本調査には見当たりませんでした。また、その存在を感じることもできませんでした。しかしながら項目としての「障がい者の就労・教育」や「理解」「芽室町の障がい者福祉について」などの各問や選択肢には、密接に関連していると思われるものがあります。「芽室町発達支援システム」の現状と課題、展望等について、本調査との関連で紹介いただけたらありがたいと思います。
- 50 障がい者といってもその人その人で障がいの程度が違います。身体に障がいのある方、精神的に障がいのある方。一口に障がい者に対してのアンケートと言われて、質問の答えに困ることもありました。その方、その方にあった細やかな手助けをしてほしいです、
- 64 自分の身近に障がい者がいないこともあり、自身の理解、意識が低く、現在町が実施している事業もあまりわかっていません。したがって、アンケートのチェックもあいまいな部分があります。
- 70 保護者は子どもの障がいを知られたくない傾向があるので、保護者、子どもに対し積極的に関わり、幼少期より将来社会の一員として生活できるよう、生活する力や働く力などで「生きる力」を育てていけるよう支援していくことが大事かと考えます。
- 71 障がい児または障がい者は誰がいつなりうるか分からないこと。健常者だから障がい者を助けるという一方的な考え方ではなく、その人がこの社会で生きていくために、欠けているものは何か？そこを共に考え普通に接していく支援ができれば良いのだが（ノーマライゼーションの原理）。自分が小学2年生のときには、学校に知的障がいの子はいて黒板消しを自発的にきれいにしていた。それを先生がみんなの前でほめたことで、本人も喜び私たちも一目置くようになった。障がいだからすべてを借りなくてはならないわけではない。障がい者だけでなく、高齢者も幼児も全て存在に意味があり価値がある。分ける、困る、別にすることや援助する、されるという形ではなく、足りない部分に手を貸す。自分たちも誰もが等しく自然になることが必要だと思う。子供たちは、本能的には優しく誰にでも手を差し伸べる。そこに大人が理解なく排除したり、偏見を植え付けてしまったりしていることが多いと思う。専門知識がなくても困っていたら一緒に考えよう、声をかけあえる地域になると良いなあと思います。

- 75 最近この問題に対して考えることが増えた気がしていますが、自分のできることから少しずつ力になれるようにしたい。
- 81 基本的人権を生まれたときから補償されたこの国で、みんな様々な能力や役割を持っていてそれを発揮できるように障がいのある人もそうではない人も自信をもってキラキラできる社会になるように願っています。環境、一人一人の意識も変わることで、進歩することが重要と感じています。
- 84 障がい福祉サービスについて、町で取り組んでいることが町民に伝わっていない（障がいのある人が知らないことが多い）。もっと情報を直接的に呼びかけ、住みよい環境を作っていける町になることを願っています。
- 86 今現在でもブラックな労働が闇に隠れていると聞く。そのような実態をなくすことはできないものか。弱者は口を閉ざしている。
- 89 障がい者が自立できるように職業訓練などを充実させ、仕事につけるようにしてほしい。
- 92 障がいのある人への差別、偏見は絶対にあってはならないことです。地域住民がまず障がい福祉への関心をもつことが大切。そのうえで障がいのある方への理解をして見守っていく。そして、どんな小さなことでも本当にささやかなことでも、自分が協力できることがあれば、お互いに（障がいのある人もない人も）つながっていけるのではないかと思います。実際にこのような環境づくりは難しいことでもあります。心を大切にしたいと思います。
- 94 歳をとると殆どの方が障がい者になると思うので、自然体で接したい。小さいころから他人に対して、特に弱者に対する思いやりの心を育てていきたいものです（小さいころからの教育が大切です）。
- 101 現場百回の考え方で、人対人の立場で～同等～
・職場内でも障がいのある人に対する理解が不十分であったことを痛感してきました。一人一人の障がいを知り、言葉のかけ方、行動の仕方を学ぶ機会を得たのは定年近くでした。
・近所の方に対してもなかなか難しいと感じています。今、サロンを開いてから3年余りですが、実際に顔を合わせ交流したことで、理解につながるものだと思います。
・町内の各施設で開かれている交流会、講座備品の貸し出し等々、学ぶことが大でした。保健福祉課の方々、保健福祉協議会の方々にはいろいろと相談にのっていただいたり、講座をお願いしたり、ゲーム体験の紹介など色々大変お世話になっております。わが身も体力が伴わないときなど気持ちがダウンしてしまいましたが「大丈夫です」とあたたかな声でアドバイスを受けると、またやる気を取り戻します。ありがとうございます。
- 102 交通、移動手段の充実、小規模サロンなど交流の場。じゃがバスの有効活用の改善、工夫。
- 103 障がい者が働くために、通勤の支援が必要です。